

---

# 遊靈遊獄

リオ・レウス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊霊遊獄

### 【著者名】

リオ・レウス

N6686D

### 【あらすじ】

靈が見えてしまつ少年「浩」と、地獄から逃げてきた訳ありっぽい浮遊霊のお話。

## 第一幕・出会い（前書き）

まずははじめに、

### 登場人物

浩<sup>ひろし</sup>・昔から靈が見えてしまう少年

靈<sup>れい</sup>・なぜか浩の前世の靈だと自称する。地獄から逃げてきた??

よかつたら評価お願いします。

## 第一幕・出会い

世の中には見えないハズのモノが見える人間がいる・・・・

浩はいつも通る通学路を歩いていた。

ふと、浩の歩が止まつた。

浩には靈が見えた。昔からいろいろな靈を見てきた。

だが、こんな靈は初めてだよ？？

(…………こんな…………何で俺がいんの？？)

浩の視線の先には自分と同じ姿の靈がいた。

ふと、その靈が浩の視線に気づいてこちらを向いた。

「あー！発見ー！俺の相棒ー！」

気がつくがいなや、靈は呑びながら走つてきた……と叫びよつべつ  
てきた。

その靈はそのまま浩の背後に滑り込みちょこんと座った。

「これからどうまでもついて行くからー・プロジェクトー」

靈せし月夜。

憑かれた……完全に取り憑かれた……

ヤヴァアイ……こんなの初めてダヨ……

## 第一幕・出会い（後書き）

よかつたら評価お願いします

## 第一幕・正体

キーンゴーンカーンゴーン…

チャイムが鳴った。

時は3時間目

浩はすっと靈を観察してきた。

が、靈は何も言わずに黙つたまま「口」に口じでいて、何かをする気配はない。

「え～～ $x$ が $y$ で $y$ が $a$ だから $x$ が $a$ で $a$ は $y$ でつまりは $x = y = a$ なわけですよね？？分かりますか？？」

また数学の竹田先生のわかりづらい説明が始まった。

もつとわかりやすく説明できないのか…全く…

…とその時、いきなり靈が口を開いた。

「さあ、俺は何で君の相棒になつたでしょーか？？これ問題ね？？」

(……知るか！…だいたい何でこいつ？？もつと美人なお姉さんの靈とかが、いろいろあんだる？？これじゃ夢も花もないお話になつちやうじやんかよ……どうしてくれんだよ…この浮遊靈…)

浩は心の中で愚痴りまくってみた。

そしていつも不真面目な浩だがなぜかまじめへんぱに雰囲気でキレた。

(俺には勉強しかないんじゃあー！勉強……)

ああ、浩は気が狂つたか、いや、ちょっと取り乱していくだけだ。

「勉強なんていつもしてねーだりー…それより俺の質問答えらうつの一ー！」

今度は靈もキレてきた。

(うーセーなー！授業に集中できないじゃんかよー！何で問題？？  
もつとほかに話すことあるだろ？？)

すると靈は浩の心の声に答えるよつて話題を変えた。

「実は俺、君の前世の靈ダヨー？」

「え？？」

浩は思わず顔を出しきつまた。

## 第三幕・ワケ

「普通生まれ変わると、前世の靈が生まれ変わりの肉体に入るんだけど、どーゆーことか、俺は入れなかつたんだよ…あなたの肉体に、ね…」

（マジかよ～～？？じゃあ俺はこれからこの靈に肉体乗っ取られんのかあ？やだな～～マジかよ～～痛いのかな？？……ってかこれ理科の教科書じやん…？）

急いで数学の教科書に取り替える浩を横田に靈は話を続けた。

「そんで、入る肉体がないからそこいらを放浪してたワケ…そしたら閻魔のヤロオ～、俺を地獄に叩き込もうとしゃがつた…靈は理由がないと下界にいられないから、生まれ変わりのアンタに憑くしかないんだよ…」

（まじかよ～～…せつやないよお～～…何で俺？？…）

浩は数学の教科書に落書きをしながら心の中で疑問を連呼した。

「俺さ、まだ下界に用があつてまだ地獄に行けないんだよ…訳ありつて」と…わかった？？分かつたら返事…！」

（しゃべれねーーーの…授業中だぞ？？周りから見て一人でしゃべつてるように見えちまうじやんかよ…・・・全く、こいつの頭は空か？？…あ、靈だつた）

そんなことを思いながら浩は前席の人洩しかすを投げ始めた。

「あ、言つ忘れてたけどアンタの心の声、全部聞こえてるから……。  
セイセイプロジェクトー！」

(「うせえ……マジでこの靈ウザイ……肝心なことを話すタイミングが遅す  
気分……ー）

「あ、そういえば、もう一つ、忘れてる」とあつた……。

## 第四幕・願い（前書き）

やつとりじめで書こうたあーー！

まだまだ書く（と思ひ）ので応援団口

## 第四幕・願い

「もーつ、言い忘れてたことがあったーー！」

「靈が言い忘れていたこととはーーなんかかなり重要なことの予感ーー」

「実は俺、どんな願いことでも一つだけ叶えられんだよーーー！」

（えーー？マジでえーー？最高じゃんーーー）

浩の欲望が胸の中で激しく渦巻いた。

「ただしーー大きな代価が伴つーーー！」

（なんだよそれ？何が必要なの？？？）

「ズバリーーーアンタの肉体ーーーと命ーーー」

（…………えーー？…………）

「肉体はそのまんまの意味ーーー肉体を俺に渡すーーーってこと。で、命  
つてのはつまりーーー魂！？っての？？俺は肉体を持たない 魂だけ  
の存在……だからこの願いを使うと靈にもなれずにこの世から、い  
や、あの世からも完全に消滅するってこと。」

（え？？…………それって意味なくね？？？）

「まあ、ある意味では幸せだよーー地獄は辛いから……まあ生まれ  
変わなくななるけど……」

キーンゴーンカーンゴーん

かりゅうビチャイムが鳴った。

「ほかにも話したい」とこいつぱこあるよ?~?~

靈は延々と話をし続けた…

キーンゴーんカーンゴーん

時がたつのは早い。

早くももつ学校が終わってしまった。

浩、ただいま下校中

靈はあるの後もずっとじしゃべり続けていた。…5時間田の終わり頃まで…

まあ浩は頭が悪いから半分も覚えていないが、またとにかく死んでからの世界とか、地獄での罪の償いとか、そんなことを話してもらつた…ひじい…

(魂と肉体を引き替えに願いを一つ…か…どゆこと願えばいいんだ?  
?)

浩は家に帰つてからもずっと、そのことを考えていた。

## 第五幕・地獄友達

翌日、浩は目覚めた。

7：20。親はもう仕事に出かけている。

……………声がある。

「ああはははははー……みんなくんのー? ははははー……イイよ? ？」

見ると居間で浩の前世の靈（自称）がなごやかに話している。

「何やつてんだよー? 朝っぱらからひりせーんだよ

浩は怒鳴った。

靈はうれしそうに無線で誰かと話していた…そして不適な笑みを浮かべ、こいつをじりじり見てくる。

「… なんだよ…キモチわりーな見てんじゃねーよ…」

浩が少し気味悪そうに呟つと…

「俺の地獄友達が今日の午後、下界じかいに来るって…」

「……ハアアー! ? 地獄友達い? ?」

「さう、俺の靈仲間サ 地獄から逃げてくれるらしく…下界じかいに

……楽しみにしててね（

（おれいつたいどうなつてんの？？何で浮遊靈と一緒に住まなきゃならん！？）

2時間目、浩は 理科のノートに落書きをしながら心の中ドツヅルサブリノイデ中（

いた。

（全く……なんて俺はついてないんだ……）

「憑いてるじやん……俺が……」

（あ、心の声聞かれてるんだった！！ウツヅゼH!!なんかシャレつぽく言ったトコがまたウゼエよお～～あ～～も～ヤダ、俺の人生終わつた～～

すかさず靈が口をはさむ。

「ちなみに俺の人生は終わつてますう～～もう死んでますからあ～～ギヤハハハハハ～！」

妙にテンション高いなオイ……と浩は心の中で思つた。

（とにかく今日は家に帰りたくなえ……）

「俺は早く帰りてえ～～～

またまた靈が横から口をはさむ。

(ううせーよーーもうメンズーーすべてがーー)

そう言ひて浩は落書きで全神経を集中するのだった……。

## 第六幕・マジでー？

そして放課後。

浩は何となく放課後の補習授業を受けに行つた。

まあ補修授業といえばまじめくんが行くようなところだ。

さすがの浩も一人じゃ心細いので、親友の剛たけるを誘つて行つた。

……まあ家に帰りたくないだけなのだが……

「お前が補修なんてめずらしきじやん??氷柱ひづるでも降るんじやね?  
?」

すこし言われようだ…

「相当素行そくぎょうが悪いんだなー!!ハハハハッ!!愉快つらう愉快つらう!!

靈れいがわざとらしくわめぐ。

「まあ今日は勉強がしたいなあーーなんて思つてね、俺にもあせり  
みたいなのが出てきたワケよ」

靈を無視して浩は親友とのおしゃべりを続けた。

「ヤツベーーーマジで何か起るんじやねーのか?槍やりでも降つてくれん  
じやね!??ってかお前ホントに浩かよー!?

(ホンシトす!)と言われようだな……俺つてそんなにふだん不真面目か!?俺つてそこまで悪く思われてんの??)

なんて会話をしながら補修授業が行われる視聴覚室へ向かった。

すると視聴覚室の方向から悲鳴が……

「キヤアアアアアアー!」

「な、なんだー!?」

「行つてみよ!」

そういつて剛が勢いよく視聴覚室に向かつて走り出す。

「ま、待てよ……」

あわてて浩も後を追う

ガラガラガラ!!

浩が勢いよく扉を開ける。

「…………ギィヤアアアアアアー!!なんだあれは…………

そこには見たこともない生き物がいた…………

## 第七幕・緊急事態！！

視聴覚室の扉を勢いよく開ける…！

ガラガラガラ…！

(な、なんだこれは…?)

浩は驚愕した。

そこには恐ろしい外見の怪物がいた。

その怪物には、

頭からとげが生え、

背中からもとげが生え、

手足からもとげが生え、

そして腹には…またとげが生え、

尻尾には…まあ全身とげだらけの怪物がいたのだった。

「なにこれ…？でかいウニ…？」

剛が言つ。

(どんだけ認めたくないんだよ…この怪物を…)

そのとれ、

見ると怪物は浩の好きな女の子、楓を束縛していた。

「助けてえ！－誰か！－とげが痛いのぉ～～！－」

彼女は必死で叫んでいる。

「大変だ！！早く助けないと！！」

と剛が叫ぶ。

( そ う だ ！ ！ 早 く 楓 ち ゃ ん を 助 け な い と … 楓 ち ゃ ん が 危 な い ！ ！ )

浩も必死で助ける手段を考える。

(ううん……真っ向から三たてでも勝てそうになし……)

すると靈が浩に耳打ちした。

「あのさ、願い使つちゃえば？？もうそれしかないよ！？早くしないと楓ちゃんが危ないよ？早く俺に肉体よ」しちゃいなよ！！」

靈はなぜか朝のよつた不適な笑みを浮かべていた。

（そうだな…確かに俺が消えて楓ちゃんが助かるなら…）

「助けてえーー！」のどがとげ、チクチクして地味に痛いのぉ～～！  
助けてえーー！」

(……………)

(「……」「レ、助けなくてダイジョブじゃねー？…」)

浩がそんなことを思った瞬間、剛が勢いよく怪物に向かってつっこ  
んだ。

「！」のヤロオーー！俺がぶつ飛ばしてやるーーー！」

## 第八幕・恋なんかしてる場合じゃない！！

「！」のヤロオー！俺がぶつ飛ばしてやる……！」

「うがいなや、剛は怪物に向かつて突つ込んだ。」

するとかすかに、怪物から声がした。

「ヤツベ：こんなのに聞いてねーぞ！？ 浩つづくヤツだけじゃないの  
かよ？ 雄誠のヤツ、だましたなー！」

(え！？なに、俺！？雄誠てだれ？？)

剛には聞こえていないようだ。

「……」  
俺ら仮にも靈体だから消えればいいじゃん！！

(え? ? 靈? 靈て? ? ..)

「消えるやー！ーせーのー！」

スカツ

剛の拳が怪物に当たる寸前、怪物は跡形もなく消えた。

ドサツ

楓が怪物の束縛から解き放たれる。

(なんだつたんだ？？あの怪物…？)

そつ疑問に思いながらも浩は正直、剛の行動に感心していた。

浩では、絶対にできない行為である。

「剛くん、ありがと…」

「いや、…その…当然のこととしたまでや…」

何か、はつれりと剛と楓の周りにピンクのオーラが見える。

(ヤツベ、あの二人いい感じになつてきてねー？最初、「楓」は浩の好きな女子つて説明されたよね！？早くも関係危うし…？コレって取り返さなきゃならんのか？全面戦争か？？)

浩が剛との全面戦争を覚悟したそのとき、浩はあることに気づいた。

(靈がいない…あいつ、どこに行つたんだ！？)

浩は一瞬考えをめぐらした。

ピキーン…

浩の頭をどんなに考えがよぎった。

(あやか…アイツ………………あの怪物の正体は…

…)

浩は視聴覚室を勢いよく飛び出した。

「なんだ？ 浩のヤツ、どうしたんだ？？」

剛と楓は視聴覚室に一人取り残された。

## 第九幕・靈の陰謀！？

浩はとかく急いだ。

視聴覚室の周りを調べた。

そして、視聴覚室を飛び出して1～2～3秒後、浩は準備室の前で足を止めた。

中からかすかに声がする。

「うつせ〜……そ……てい……なんだよ……」

浩はしづかにドアを開けた。

「ダカラ、俺も想定してなかつたんだつて！…まさか浩<sup>アイツ</sup>に友達いるなんて…ひとりぼっちだと思つてたんだよ」

…その声は浩に憑く靈の声だった。

「うぬせえ、お前に呼ばれたから、はるばる地獄から来てやつたんだぞ！？言訳すんなよ！」

「そうだよー！雄誠<sup>ゆうせい</sup>はいつもそつだ。小さい頃から…」

（雄誠！？また出てきた、誰だ？重要人物登場か！？）

浩は物陰で必死に耳をすました。

( 3人！？いや、4人いる！？例の地獄友達なのか？？ )

浩は物陰の隙間から声の主を確認した。

4人の少年が輪になつて座つていた。

もちろん浩に憑いている靈もいっしょだ。

その誰もが白く、透けている。

( 全員靈体か… )

浩は自分の考えが正しいことを悟つた。

( 雄誠つてヤツは俺に憑いてる靈の名前だ！！間違いない…そしてあの怪物の正体は例の地獄友達とかいうヤツが擬態してたんだ！！ )

浩がさりげなく靈達に近づこうとしたとき…

「盗み聞きなんてよくねえな…！…出てこよ…！…俺をなめんなよ…？」

雄誠がいきなり叫んだ。

( まよい…見つかったか！？ )

なんだか波乱の予感！？

## 第十幕・仮面の靈

「そこにはるのは分かってるんだー早く出てこーー！」

雄誠が大声で言つ。

（じょうがなー観念するか…）

浩が資料棚から出ようとしたら…そのときーー！

雄誠の後側に赤い稻妻が走つた。

「よくぞ見破つた。さすがは雄誠、と言つたところか……」

そこには不気味な仮面をかぶつた人物（？）が立つていた。しかも  
3センチくらい浮いてる。

「やはりお前か…俺を地獄へ連れ戻すよう閻魔に命令されたのか！  
？」

雄誠が言つ。

「お前を連れて戻りたいところだが、あいにく、今日の任務はお前  
じゃない。」

その仮面の靈は例の地獄友達を指した。

「そここの浮遊靈どもを連行しに来た。第八地獄監獄脱走により、神  
妙にお縄についてもらおうーー！」

仮面の靈はしづかに言い放つた。

地獄友達はひびくおびえている様子だ。

(「つか、見つかってたの、俺じゃないのかよ…マジびっくりさせんなよ）

浩が内心さう思つたとき、不意に雄誠が口を開いた。

「……あと、浩、わっせから氣になつてたんだけど、何で隠れてんの？…出てこいや」

(…  『氣づかれてた～～…マジかよ～？氣づいたのかよ…』)

結局意味ないじやん…と言つたりで、浩は物陰から出てしみじみ見物することにした。

「やつはせれないぜ？…こつらは俺が呼んだんだ…こつらに責任はない…！」

(結構人情深いな…  アイツ…  ちょっと見直したよ…)

浩は感心した。  が、次の瞬間…！

ババババババッ…！

なんのまえぶれもなく、いきなり仮面の靈の手から稻妻が走る。

稻妻はそのまま雄誠を貫いた。

「グツ！－なんてヤロオだ……プライドだけじゃなく、人の心まで捨てたか！？」

雄誠が仮面の靈に向かつてつぶやく。

「ハツ！人の心！？そんなの知ったことか！俺はもう死んでいる！今はこうして閻魔の元に仕えている！そこに人の心が必要か！？お前は昔から甘いんだよ！」

そういうと仮面の靈は、また手から稻妻を出した。今度は地獄友達に向けて……

「ギヤアアア……やめろお！地獄はヤダア！現世がいいんじゃあ！」

地獄友達の抵抗もむなしく、仮面の靈から放たれた稻妻で束縛されて彼らは連行されていった。

「次は我が身と思え」

そつ言ひのこして仮面の靈は姿を消した。

## 第11幕・久しぶりの普通登校

え？？あの後どうなつたかって？？

あの後は特に何もなく一日が終わつたよ??

普通に帰つて普通に飯食つて普通に風呂入つて普通に雄誠と寝た。アイツ

まあ幽霊と寝る時点で普通ではないのかもしれんけど

え！？あのあと雄誠はどうしてかって？？

ダイジヨーブ！！地獄友達の件はすっかり忘れてるから（？）。

でもオレが雄誠を怒つたからアイシちゃんとしょげる。

あ  
モニ学校の時間しゃん!!

「いつでもね～か！？」

そう言つて浩は家を出た。

雄誠（靈ね）はまだ家でしょげている。

浩は心の中で雄誠をあざ笑つた。

そいえば、あの地獄友達事件から3日、新しい発見をした。

一、アイツ、常にオレの肉体ねうつてるシヒーと……あれには内心  
びっくりした。

俺の体乗つ取ろうなんていい度胸してんじゃねーかよアイツ……

二、アイツは基本的に壁でも床でも天井でも何でもすり抜けられる  
けど、すり抜けられないモ ノとがあるらしげてこと。

カビの生えたパンとか、公衆トイレの壁とか、汚い菌類が張り  
付いてそうな物体はダメら しい……あとアルミホイルもダメだ  
ったな……

今度あんな事したら雄誠アイツをホイル焼きにしてくれようやーーー！

まあそんなこんなで学校に向かってるんだけど、アイツいなーと……

ヒマダナア~~~~~！！

第11幕・久しぶりの普通登校（後書き）

ヒマダナア～～！！（作者）

## 第十一幕・ハメられたか・

「うそ！」

学校についた浩。

(ヤツベ……暇すぎて死にそうな登校だった……普通の登校ってこんなに疲れたっけ??)

カバンを片付けて席に着く。

ふと  
隣からヒンケのオレテか

二

楓と岡が楽しそうに会話をしている

ものすこい不<sup>レ</sup>を放せながら

(おせんのいじわら陽子)

浩は確信してしまつた。

(ヤベエ…俺の人間関係、ズタズタじやね？？なんか、三角関係つぽいのできてるよね！？)

そんなことを想えてこの娘の耳に聞かせても娘が……

「だからさあ、俺と取引して願い叶えればいいじゃん！？」もうソレ

しかないじゃん!! 「

( もうしかなによな…… も前と取引するしか…… ん?  
?)

浩がふり向く。

あぶねえ、雄誠<sup>アイツ</sup>がいた。…… いつのまに来たんだよ。

「なんのつもりだテメエ、ホイル焼きにするぞ? ?」

浩が素っ気なく齧る。

あぶねえ、ホンシトあぶねえ。気づかぬつり取引するトドいた  
よ……

「ほ、ホイル巻きにしてカビ菌の海原に放り捨てるだつてー? ?

(え? ? 誰もそんな! )と言つてないじゃん…… あ、こいつのセリフ  
の方がいいや、採用)

雄誠には「」の声も聞こえてくるはずなのに、雄誠<sup>アイツ</sup>はなぜか不適な笑  
みを浮かべてこる。

あやしー……

… とその時、剛が話しかけてきた。

「 明後日、肝試し行かねえ? ?」

「へ？」

「楓と権一も一緒に行くんだケド……」

（今、隣に靈がいる状態の俺に恐れるモノなんてあるのか？？それにはこれ、楓ちゃんを取り返すチャンスじゃんー！）

そう考えた浩は瞬時に決断を下した。

「行く行くーー！俺、明後日ちょうど暇だったんだよ！」

（オッシャーー！約束完了ーー！これで明後日……）

…………が、浩は答えてから、あること言つこいた。

一ヤケている…………雄誠がまた、不適な笑みを浮かべている。

（…………またもやハメられたか……雄誠に…………）

浩はひどく後悔した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6686d/>

遊霊遊獄

2010年10月9日23時21分発行